学校だより　　平成２７年１２月号

かつき

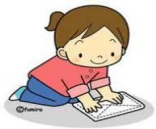
志布志市立香月小学校

冬休みに向けて

校　長　　中條　健一郎

玄関前のイチョウがすっかり葉を落とし，しっかりと冬支度を終えた。朝の教室からは，クリスマスソングが元気な声と共に流れてくる。冬休みを楽しみに待っている子どもたちの弾むような気持ちが伝ってくる。

昼休み校庭に出ると「校長先生，見ててね。見ててね。」と大勢子どもたちから声がかかる。「くるっ」と逆上がりを何回も見せてくれる子。一輪車で自由にこぎ回われるようになった子。「交差跳びができるようになったんだよ。」と一年生。

この子どもたちは、昼休み毎日のように練習していた。できなかったことができるようになる喜びを味わっている。３学期は，さらに難しい技に挑戦していくのだろう。授業の様子を見ていると、先生から視線をそらさず，まっすぐに前を見つめる子どもたちの瞳がある。話し合いが始まると 自分たちの考えを持ち寄って意見を言い合う。壁には，びっしりこれまで調べる手がかりになる資料が張られてあった。教師が自分なりの考えを引き出そうと集めてきた資料だ。学校では、日頃から４５分の授業をつくるために様々な工夫をし、授業を行おうとしている。まさに「啐啄同時（そったくどうじ)」とはこのようなことであろう。すべからく双方が共に思いを持っていないとできないことである。きっと，家庭でも自分なりに調べたり，学習したりしていたのだろう。この積み重ねが、子どもたちに学びの力を身につけていくのだ。一朝一夕にはできない。「ローマは一日にしてならず」である。家族で伸びゆく姿を見て２学期を振り返ることであろう。ぜひ、できるようになったことを親子ともに喜び、さらなる目標を見つけ，夢実現の足がかりとしてほしい。

先日、香月公民館の餅つきに出かけた。あいにくの雨であったが、多くの地域の方々が餅つきの準備をし、子どもたちを待っていた。今では，もう家庭ではほとんど見られなくなった杵でつく餅つきの光景だ。雨にもかかわらず、子どもたちを連れて参加していただいた保護者の方々にも頭が下がる思いであった。この冬休みが、子どもたちにとって有意義な冬休みになるとともに親子の絆を確かめ合う機会となることを心から願っている。